



For adult only

mechi

# Contents

prisoners	3
confession	54



当同人誌をお手にとっていただき、誠にありがとうございました。  
お手に取って読みたいと思っていただき、ありがたく思います。

The unofficial R-18 dtms crossover fanfiction novel

## prisoners

---

先月起訴に持ち込んだ殺人事件の報告書を仕上げた時には、22時半を過ぎていた。

同僚達とはつくに帰宅して、デスクの端ではお節介な部下のリーが置いてったフィッシュ・アンド・チップスがすっかり冷たくなっていた。

「…食わないって言った」

取り上げた包みをゴミ箱に放って、ジャケットを羽織った。

署を出ると、憂鬱な6月の霧雨が舞っていた。

この田舎町、ウォータールブロックに腰を据えて3年。どれだけ凄惨な事件を解決しても、ここに来る羽目になった経緯の事件が解決してもなお、憂鬱が晴れる日はない。

車に乗り込み、海岸沿いのメインストリートを家へと向かう。ほんの15分もかからない距離がやけに遠く思えるのは、先週起きた強姦事件の捜査が一向に進展を見せないせいだろう。

疲れた視界の左の端、暗い海の波間に何かが見えた気がして、二度見していた。

目をこらすとそれは人の上半身で、薄霧に<sup>けぶ</sup>煙る人影は浜に背を向けて深みへと向かっていく。

「おい……っ！」

車を停め、慌てて飛び出して浜へと走る。

砂に足を取られるうちに人影は深みへ向かい、既に肩まで波に浸かっていた。

「…勘弁しろ！」

海に入り、波を掻いて人影を指す。波に押し戻されて思うように進めず、目指す頭は今や時折波に飲まれては浮き沈みしていた。

「クソッ……！」

無我夢中でそれに辿り着き、掴んだ腕や服を死にものぐりで引つ張った。俺に力なく抱えられるだけのそれが男か女なのかも、生死の確認もそこそこに、必死で陸に引きずり上げた。